



一人ひとりの 幸せのために

Message



皆さん、人間とは何かを考えたことはありますか。
 私は、障害のある人もない人もともに生きていくこと、いや、生きていきたい
 と思うことが、人間が人間であること理由のひとつだと思っています。
 では仕事とは何かを考えたことありますか。
 無論生きる糧のためではありますが、同時に生きていて良かったと言う喜びや
 感動を得るためのものだと思っています。
 障害者福祉の職場には、障害のある当事者の方とともに生き、皆さん自身が人
 間として成長することで、働いて良かったと思う仕事がたくさんあります。
 「仙台はげみの会」では皆さんを、お待ちしております。ともに歩む仲間として。

理事長 細井 実



About

名称 社会福祉法人仙台はげみの会
 設立 昭和38年 マザーズホームとしてスタート
 平成10年 社会福祉法人格取得
 法人本部 仙台市青葉区立町18-3
 事業内容 障害のある方が、安心して充実した生活を送れるよう、障害者施策の推進に努め「誰もが生き
 がいや働きがいを持ち、自立した地域生活を送ることができるまちづくり」実現の一端を担う
 事業種別 児童発達支援、生活介護、特定相談・障害児相談、仙台市障害者家族支援等
 (共同生活援助、短期入所、居宅介護、移動支援 *H31.4 予定)
 職員数 171人(常勤非常勤含む 2018年8月1日現在)

History

- 昭和 38.1 仙台市荒町にあった「斎藤記念館」内に、小児麻痺の子どもと母親が集まり「仙台市マザーズホーム」を開園。第1歩を踏み出した。
- 昭和 42.9 「仙台市マザーズホーム」を立町(旧仙台市交通局職員寮)に移転。
- 昭和 44.3 「西多賀母の家」(宿泊所)開所。(昭和 58.3 事業終了)
- 昭和 52.10 「仙台市第二マザーズホーム」開園。
- 昭和 56.5 「財団法人宮城県心身障害児(者)福祉協会」に法人名変更。
- 昭和 61.4 「仙台市第三マザーズホーム」及び「中野はげみホーム」(心身障害者通所援護事業施設)を開園。
- 平成 6.4 「仙台市上飯田マザーズホーム」開園、同時に仙台市第2、第3マザーズホームをそれぞれ地名を冠した立町・大野田・白鳥マザーズホームに名称変更。
- 平成 10.10 「社会福祉法人 仙台はげみの会」設立認可。
- 平成 11.3 「中野はげみホーム」閉所。
- 平成 11.4 「高砂はげみホーム」開所。
- 平成 14.4 「愛子たんぼぼホーム」業務開始。
「マザーズホーム」を「たんぼぼホーム」に名称変更。
- 平成 17.4 「愛子たんぼぼホーム」が西花苑に移転「西花苑たんぼぼホーム」開園。
「加茂はげみホーム」開所。
- 平成 17.5 「重症心身障害児(者)通園事業B型」を高砂はげみホームに併設。
- 平成 17.10 「仙台市障害者家族支援等推進事業(レスパイト)」を西花苑たんぼぼホームで開始。
- 平成 18.9 「立町たんぼぼホーム」改築完了。
- 平成 21.4 「仙台市障害者家族支援等推進事業」レストみやぎの開所。
- 平成 22.4 「国見はげみホーム」開所、「重症心身障害児(者)通園事業B型」を併設。
- 平成 23.12 「袋原たんぼぼホーム」の管理運営を開始。
- 平成 26.3 「白鳥たんぼぼホーム」、田子西に移転「田子西たんぼぼホーム」開園。
- 平成 26.8 相談支援事業所「ねくすと国見」開所 ※国見はげみホーム併設。
- 平成 29.4 ~ 各たんぼぼホームが児童発達支援センターとして指定を受け管理運営。



荒町斎藤記念館



マザーズホーム開所



西多賀母の家(宿泊所)



20周年式典

スタッフ インタビュー

Staff Interview

Q この仕事をえらんだのはなぜですか？



学生時代のこと。福祉のしごと・はげみの会を選んだきっかけ。

はたらきはじめの悩み。仕事を続ける中で壁にぶつかったとき。

今のしごととやりがい。目指していること。

福祉のしごとを考えている学生へ伝えたいこと。

経験年数、職種と役職、

それぞれ違う5人のスタッフ目線でインタビュー。





Tamura Chiaki 田村 智秋

H30入職 生活支援員
仙台医療福祉専門学校卒
青森県平内町(ホタテの町)出身
◎毎週の楽しみ Qチューブを見ること

がんばれ新人!



Takahashi Kouyou 高橋 航洋

22歳 B型 マイペース 生活支援員
尚絅学院大学卒 身長171cm 体重56kg
鈴木絢音(乃木坂46)と同じ誕生日
◎将来の夢 ピカソのフルネームを覚える

一歩ずつ、
目指している。

将来像が見えていなかったけど

高校の頃は、特に具体的な将来像がイメージできておらず、3年生まで淡々と日々が過ぎていきました。勉強にも気持ちが向かず、このままではいけないと親に相談をしたところ「何か資格があるといいんじゃないか」と言われ、専門学校に進むことにしました。子供に興味があったので、そういう道もいいなとイメージするようになっていきました。

実習は介護系からスタートし、施設実習を経て、保育。そしてまた介護に行き、最後に保育という流れで、元々人とかかわることは好きだったのでどの実習も楽しかったです。

イメージが変わっていった

正直なところ、最初はあまり良いイメージを持っていませんでした。

1年生の夏、車いすバスケのボランティアをはじめて障害のある方と接したのと、学校で、障害のある方から、授業の一環として話をする機会があったりして、接していくうちに自分が抱いていたイメージとの違いを感じました。自分が知らなかっただけで、障害があっても特に自分と違わないんだと思うようになって、2年生の実習を終えたころには「こういう仕事に就きたいな」と施設職員へ気持ちが向いていました。

楽しそうだと思った

学校に講師としてきて、はげみの会の紹介をしたのが学校の先輩でした。そのときはそこまで強く印象には残ったわけでは無かったけど、3年生になり、実習も終わって就職先をいくつか紹介されたうちの一つにははげみの会がありました。先輩もいるし、改めて話を聞いたときも「楽しそうで、いいところだな」と感じ、入職を決めました。

入職1年目の悩み・自分らしさ

私は仕事のことで「辛いな」と一つ考えてしまうと、全部マイナスに考えてしまったりする所があります。それではいけないと思い、今は、1回はすごく考えて、その後はそれを引きずらないように気を付けています。ただ、それでも落ち込むことはあります。そんなとき利用者さんとかかわって、利用者さんの笑顔を見ていると気持ちが晴れたりします。

今年一緒に入った同期のことは意識しています。彼はしっかりして、まじめな人だと思いました。自分に無いものをたくさん持っているなと思いましたが、だから近づけようということではなく、自分の得意なことを生かした方がいいと思い、今はまず、とにかく明るく過ごすことを心掛けるようにしています。

障害のイメージを変えていきたい

私は、利用者さんの行動には必ず理由があると思います。そして、その理由を知れるように利用者さんに寄り添いながら気持ちを汲み取

れる努力をしていきたいと思っています。一人一人の利用者さんとしっかりと向き合い、関係を築いていきたいと思っています。学生時代に先生から、「街中で障害のある方が歩いているときに子供を連れのお母さんが『そっち見ないで』と子供に話すことがあったんだけど、それでは、障害に対してのイメージや概念もきつとまだわからないうちに、『こういう人と関わっちゃいけないんだ』と子供は思ってしまう可能性があるんじゃないかな」と言われたのが今も印象に残っています。自分自身、最初は良いイメージを持っていなかったこともあって、考えさせられました。

今は、この仕事を通して、社会の障害のある方に対するイメージを変えていきたいと思っています。

「障害はあるけど、こんなこともできるんだよ」「普通に接していいんだよ」ということを子供たちに伝えたいし、「障害者」という目線でその人を見るのではなく、「ひとりの人」として見てもらえるようにかかわる場面を増やしていければいいなと思っています。



きっかけは施設実習

大学3年生のときに保育所実習が5月と8月にあるんですが、その間にあったのが障害者の施設実習。学校で勉強はしていましたが、実際の現場に行くのははじめてでした。

正直、実習に行く前は「なんで行かないといけないのか」と思っていました。それが、実際に実習をしてみるととても楽しく、施設での仕事に興味を持ちはじめ、4年生になったときにはボランティアやアルバイトを通じて接する機会が増え、障害者施設で働く道に進みたいと思うようになりました。

大学に入るときは保育士を目指していましたが、両方の実習をやってみて、私は施設での実習の方が「楽しいな」と思いました。

やはり働くなら楽しいところの方が良いなと思っていて、施設実習前に現在の上司にあたる職員さんが学校に講師としてきて、「な

ぜ施設実習をするのか」という話をしてくれました。そのときの資料はずっと持って見ていましたし、障害系への進路を考えつつ、保育の方も頭の片隅にあったので、両方あるはげみの会に申し込むことにしました。以前学校に説明にきてくれた職員さんもいたり、見学もして、知っている人がいた分安心して働けると思入職しようと思いました。

楽しいことも辛いことも

今は1年目で、ケース担当3名といくつかの行事担当を割り振られています。最近は外出活動時の昼食の手配等をしたり、少しずつ先輩方から教えてもらいながら仕事を覚えているところです。

入職からしばらく経って、楽しい4割、辛い6割という感じです。辛いというか、自分で考えて動いてみて、毎回うまくいわずでなく、失敗から学ぶことも大切だと思うので、結局は「楽し

い」につながっています。それでも落ち込むようなことがある日もあります。そんなときは良い意味でそのことを引きずらず、家に帰り、ごはんを食べ、寝て、起きて、次の日には気持ちを切り替えるようにしています。また、先輩たちにも相談をして、次に生かすようにしています。

たくさん共有したい

一日一緒に活動を過ごした帰りの送迎車中、利用者さんから「今日楽しかった」と言われることがあります。本人は何気なく発した言葉かもしれませんが、自分にとって、これほどうれしい言葉はないです。

私は、そんな利用者さんとの楽しい時間をたくさん共有したいと思っています。もちろん楽しいことだけでもない。けど、それも含めて一日一日を大切に過ごしていきたいなと思っています。

はげみの会 出身校

宮城教育大学、宮城学院女子大学、仙台白百合女子大学、東北福祉大学、明治学院大学、東北大学大学院、東北福祉大学大学院、創価大学、札幌大学、石巻専修大学、東日本国際大学、東洋大学、尚絅学院大学、立命館大学、東北学院大学、東京経済大学、北翔大学、東京福祉大学、大東文化大学、放送大学

聖和学園短期大学、近畿大学富岡短期大学、羽陽学園短期大学、近畿大学九州短期大学、聖徳大学短期大学部、盛岡大学短期大学部、福島学院大学短期大学部、宮城誠真短期大学、青森中央短期大学、桜の聖母短期大学、仙台医療福祉専門学校、横浜高等教育専門学校、仙台幼児保育専門学校、東北こども福祉専門学院、東北文化学園専門学校、仙台医療技術専門学校、岩手看護専門学校、上智学院聖母看護学校、仙台市医師会看護専門学校、日本動物専門学院、秋田情報ビジネス専門学校、仙台総合ビジネス公務員専門学校ほか

パートから 園長になる。



はたらくきっかけ

学生時代のボランティアや、以前の仕事の中の障害のある方との出会い、そして親せきに知的障害がある方がいたことも福祉職を目指すきっかけになりました。たんぼぼホームで働きたいと思ったのは、こども関連の仕事をしていたこともありましたが、障害児の施設に勤めたいと以前から思っていたので、はげみの会から募集があったときには迷わず申し込みをしました。

パートから園長に

入職当時はパートでしたが、2年仕事させていただいた後、正規職員転換のチャンスがあり、以前から『正規職員になりたい』と思っていたので試験を受け、正規職員になることができました。一年間指導員として勤務後、主任兼代行となり、翌年に主任として立町たんぼぼホームに配属になりました。そこから立町、大野田への異動を経て、平成28年から園長業務をさせていただいています。園長業務はそれまで知らなかったことや、想像できていなかったことが多く、改めて、これまでの園長が様々なことに気を配り考えて下さっていたことを実感しています。

入職当時に振り返って

入職当時に思い返すと気づいたこととあります。保護者さんにも「こんなことやってあげたい!」と熱く話していた部分もありました。年数がたつて今になって気付くこともたくさんあります(笑)自分は引っ張っていくタイプではなく、みんなに「ここはどう思う?」と聞きながら進んでいくタイプなので、周りの職員の力を借りながら日々取り組んでいます。

たんぼぼホーム

たんぼぼホームは「障害があるかもしれない」という不安な気持ちで入園してくる、入り口の施設。そんなお母さん方が「通ってよかった」「子育てがんばろう」と思ってくれたときに嬉しいです。お母さん方と懇談や勉強会でお話することも以前より増えましたが、今後もお子さんの良いところと一緒に探し、伝え方や褒め方、環境の工夫などを一緒に学んでいく姿勢でいられたいと思います。

目指していること、大事なこと

職員として子供と一緒に楽しく遊んで、それでいてお母さんからも悩みを引き出し、返せるような姿が理想だなと思っています。今働いている立

町たんぼぼホームは静かな雰囲気職員が多いですが、反省などで色々と言ひ合えるように心がけていきたいです。保護者の方とお話をしていくにはまずは職員室での話し合いや何気ない会話が大事なのではないかと思っています。

児童発達支援センター

たんぼぼホームは、今年度から児童発達センターになりました。心構えにかわりはありませんが、在園児、卒園児以外にもたくさんの方がお子さんの成長に悩んでいると思います。今後少しずつ地域の中で支援していける施設になっていければと思います。

目指すひとに一言

たんぼぼホームは、お子さんの成長を保護者の方と共有できる施設です。悩むこともあるかもしれませんが、とてもやりがいのある仕事だと思います。



立町たんぼぼホーム園長
宮城教育大学卒
勤続年数 14年目
◎日課は犬のさんぽ
◎食べ放題とタイ料理が好き



悶々としていた最初の6年間

学生時代は保育士になりたいと思っていました。子供も好きだったし。学校には1年遅く入って、最初の1年はボランティアもやって〜とやる気を出していたんですが、徐々に保育士から気持ちが離れ、同時期にアルバイトでやっていたパチンコ店にも慣れていくこともあって、待遇面で就職先を決めました。保育士は給料の安さも気になり…。

パチンコ店では6年間働きました。店にとっては顧客にお金をたくさん使ってもらうことが良いことだから、負けてもらわないと商売が成り立たない。顧客がパチンコ屋に求めているのは、サービスでは無く、勝つこと。だから、自分が頑張っても客から評価をいただけるわけでもなく…。自分のなかで、そのことがジレンマになってしまって、悶々としながら仕事を続けていました。

不安と期待の一步

そんな中、学校時代の先生からはげみの会を紹介されました。自分が納得して働ける、誰かと楽しい時間を一緒に共有したりできる仕事に就

きたいと考えるようになり、まず見学して。不安もあったけど、福祉の仕事をしていて友人の話なども聞いて、やってみよう。臨時職員としての採用でしたが、逆にそのことが「ダメだったら辞められる」とあまり気負わずに一步踏み出せてよかったのかなと思います。

仕事をはじめ1年がたち、自信もついてきて、将来のことを考えたときに正規職員転換の試験がありました。臨時職員のときは利用者の日中支援や送迎車(バス)の添乗が主な仕事でした。正規職員の今は利用者支援や送迎車両添乗の他に、ケース担当の仕事を持ちたり、行事の担当を持ちたり、ニュースレターという施設の広報誌の作成担当なども任せられるようになりました。

学生の皆さんに伝えたいのは、正規職員・臨時職員という形態にこだわるよりも、興味があればやった方がいいということです。自分のように臨時職員から正規職員にもなれますし、まずはやりがいで仕事を選んでみるのも一つなのではないでしょうか?

今感じていること

ある研修会で、最初は自傷が激しかった方が作業の中で何かを破いたりする発散方法に変わった。様々な取り組みを経て、変わっていった方の事例を学びました。

自分はまだ目の前のことで精一杯で、利用者さんの先を見据えて働きかけるのは、まだまだできていないと感じています。もっと利用者さんの持っている力を引き出すことができる支援員になれるように努力していきたいです。

振り返ってみると…

最初のころ障害のある方に良い印象をもっていなかったのですが、実際に働いてみて振り返ってみると「わからないから」だったからだと思います。自分と違う行動があると「怖い」とか苦手な印象を持ってしまう人も多いと思いますが、実際に接してみると「健常者」と「障害者」の間にそんなに違いはないと感じました。そして、自分と同じように、本当はもっと近づきたい思っているのにどう接したらいいかわからないから近づけない人もたくさんいるのではないかなと感じています。だから、もっと存在を知ってもらい、かがわりを持って自分に自分たちが間に入っていきたく感じています。近所の方でも近くにこういう施設があるってことを知らない人がまだまだたくさんいます。もっと社会に出て、一人の人間として認めてもらう。そうなれるよう接点を作っていくのが私たちの役割だと思っています。少しでもそこに近づけるようにがんばっていきたく思います。

他業種 からの転職



キャリアパスと働き方

- ・正規職員は1級～5級のステップでプレーヤーからマネージャーへキャリアアップ。
- ・直接支援のスペシャリストとして同じ級のまま働き続ける選択肢も。

Glade

- 1級 一般職員 *新任職員、臨時職員からの転換
- 2級 副主任 事業所内のリーダー
- 3級 主任 サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者
- 4級 たんぼぼホーム園長、副施設長など
- 5級 はげみホーム施設長など 事業所全体や法人の業務
そのほか臨時職員、嘱託職員など



仕事と、子育て

働くきっかけ

中学生くらいのときには福祉業を将来の仕事として考えていました。きっかけは、家族の中に障害を持った人がいて、生活の中で色々感じる場面があったことと、元々相談業務をメインでやりたいと思っていたのですが、実習でたんぼぼホームにきて、保育をしながら相談業務をするんだなというのがわかり、小さい子どもも好きだったので、実習後にたんぼぼホームへの就職を決めました。

気をつけていること、めざすこと

保護者さんと接するときに気を付けているのは、自分が思っていることが全て保護者さんと同じように思っているわけではないということです。相手には相手の気持ちがあって、意外と自分もそれに気付いていないかもしれないというスタンスで、やりとりは丁寧にするようにしています。

子どもと接するときには好きな遊びはなんだろうというのを一緒に遊びながら探ってみたり、不安になったときにどこで不安になってしまったのか注意深く見たり、他の職員さんの意見も聞いてみて自分だけの考えにならないように気を付けてます。

今は主任として、その名前に恥じないような動きをしようと心掛けています。職員さんが方向性とかで悩んでいるときには一緒に考えて「こうしよう」と示すようにはしています。あまり自分の考えだけを押し付けるのではなく、みんなで考え、みんなで力を合わせながら進めるのが理想だと思います。

育児休暇取得と安心

平成29年8月～育児休暇を取りました。制度上当然とはいえしっかりと保証されているので安心できました。自分は早めに戻れましたが、

保育所に入れなかったりすれば更に6ヵ月伸ばすこともできたので、焦ったり不安になったりせず過ごせて良かったです。

子どもの成長ももちろん嬉しいですが、保護者さんから「先生とお話できてよかったです」「リラックスできました」と言われると嬉しくて「またがんばろう!」と思えますね。

今後の目標としては、地域の人たちが地域で支援を受けられるようにしていきたいと思っています。

臼井 奈々子 Usui Nanako

上飯田たんぼぼホーム 主任指導員
宮城女子学院大学卒 勤続12年
・マスキングテープ収集が趣味
・社会人サークルでバドミントンと車椅子ハンド

産休・育休

産休・育休は積極的にとれるよう協力しあっています。男性(父親)も取得しています。

有給休暇他休暇

有給は入社後すぐに取得。そのほか家族の介護や看護のための休暇など。

福利厚生と、働きやすい環境づくり

働き方

希望によって、フルタイムの勤務のほか、週4日、短時間勤務など、さまざまな時間帯の働き方を選べます。

社会保険

健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、退職金制度加入

Job and License

はげみの会の職種 資格いろいろ

はげみの会では、さまざまな職種や資格を持ったスタッフが働いています。資格必須な職種ではありませんが、学生時代に学んだことや取得した資格を活かして働くことができます。

児童発達支援センター

いろいろな遊びや活動を通して発達の遅れや心配のあるお子さんの発達を援助し親の子育てを支援します。
対象:心身の発達につまずきや心配のある、0歳児から就学までの仙台市内在住の子ども

園長、児童発達支援管理責任者、児童指導員、保育士、臨床心理士、理学療法士、看護師、運転業務員

生活介護事業

一人ひとりの障害の状況に応じ、ご利用される方の希望や思いにかなった日常生活の支援や作業・創作的活動、レクリエーション活動などの日中活動支援を行います。
対象:障害支援区分の認定を受け、その区分が3以上(50歳以上の方は2以上)の方

施設長(管理者)、サービス管理責任者、生活支援員、栄養士、調理員、作業療法士、理学療法士、看護師、事務員、運転業務員

レスパイト

障害等がある方も、毎日介護をしているご家族もお互いに、ゆとりのある時間を過ごせるように家族に代わり一時的な介護等を行います。
対象:仙台市内に在住する障害児(者)
レスパイトコーディネーター、介護人、事務員

相談支援

障害のある方やそのご家族などに対して幅広い相談支援を行います。
管理者、相談支援専門員

田子西新規事業

グループホーム(サービス管理責任者、世話人、生活支援員、夜間支援員)
ショートステイ(生活支援員)
居宅介護(サービス提供責任者、ヘルパー)



スキルアップ

はげみの会では、さまざまな研修に参加したり、自ら企画もしながらスキルアップを目指します。

- 法人内研修 職員同士の勉強会、事業所ごとに講師を招いて研修会、法人内の事業所間で実習etc
- 外部研修 各専門団体の研修会への参加、研修企画への参加etc
- 人事考課 所属のリーダーや園長・施設長との面談などで目標を確認etc
- 資格取得研修 サービス管理責任者研修、相談支援従事者研修などへの研修参加
ヘルパー資格取得の補助制度
- その他 研修講師として参加、法人主催研修会の企画・実施

給与と手当

はげみの会では基本給の他勤務や職務に応じて各種手当を充実させています。

給与 大卒167,400円～ 短大・専門161,400円～ *経験年数により
賞与 3.95ヶ月分(29年度実績)
手当 調整手当、扶養手当、住宅手当、時間外手当、休日勤務手当
資格手当、職務手当、夜勤手当等

給与例) **208,770円** 大卒167,400円+調整手当8,370円+資格手当3,000円+職務手当10,000円+時間外手当20,000円



新しい共生型の複合施設 はじめます。

この冬、宮城野区田子西地区（復興住宅があるところ）で新しい共生型の複合施設を始めます。

はげみの会では「サポートセンターTAGOMARU」として、グループホームを中心とした事業を。そのほか、カフェ・レストラン、企業主導型保育園、コミュニティスペースなどを、複数の会社や法人と一緒に運営します。

障害のある人、高齢者、子ども、地域に住む人、働くスタッフ、皆がゆるやかにあつまる場所「田子西ノキシタ」

地域で、ワクワクした生活を送ることができる仕組みをつくっていく。

そんな仕事を一緒にやる仲間を募集します。

（仮）イメージ図



はげみの会がノキシタで目指すこと

- ① 希望をもってワクワク楽しく過ごせる居場所をつくりたい。
- ② その居場所が持続していけるよう、はたらきやすい環境をつくりたい。
- ③ その居場所で、どんな人でも過ごせるようにしたい。
- ④ そして、もっと他の地域にも広げていきたい。

こんな人と
一緒にしごとをしたい。
出会いたい。

- ・重い障害のある人と一緒に過ごしたい人
- ・自分の地域や地元でしごとがしたい人
- ・いろんな人と関わってみたい人
- ・福祉とか、地域とかの枠だけでない活動を何か考えたい、やりたい人
- ・しごとでワクワクしたい人
- ・しごと以外も充実したい人
- ・多様性の中で何かを見つけたい人
- ・福祉のことはよくわからないけど得意なことがある人
(例えば、情報発信とかデザインとか)

これまで
2017.10 仙台はげみの会居住支援推進プロジェクトスタート
2017.11 田子西予定敷地の草刈りをみんなで行う(この写真)
2018.3 第1回利用者家族向け説明会実施
2018.6.14 プロジェクトプレスリリース(国際航業株式会社)
2018.7.3 田子西地鎮祭
2018.7.27 入居希望者と検討会実施
そのほか、法人内外のメンバーで行うノキシタチームで検討会を定期的に実施

新しいこと、やってみよう

これから
2018.12 Tagomaruセンター棟完成
相談支援事業、レスパイト事業移転
2019.1 ショートステイ事業開始
2019.2 グループホーム棟完成
2019.4 他の事業等開始(カフェ、コミュニティスペースなど)
2019.5 ヘルパー事業、グループホーム事業開始

障害者の支援だけを考えて いては解決できない

東日本大震災以降、生きることや、仕事をする
ことの意味を考えることが増えた。

仕事ってなんだろう…

例えば、学校を卒業してから週5日、一日8時間働いたとして、1年で1920時間(80日)、40年間働いた場合は76800時間(3200日)と、当たり前なことだけど、人生の半分もの時間を仕事に費やしていることになる。
すでにその半分近くの時間仕事をし、これからの時間について考えたとき、ぼんやりと見えてきた未来に不安を感じるようになってきた。

数年後の未来から目をそらしたり、考えないようにしていても、現実には、国内の労働人口は急降下していて、高齢化や過疎化もどんどん進んでいる。
“地域包括ケア”とか、“我が事丸ごと”とか、“地域共生社会”とか、そんな言葉も、付け焼刃のように感じてしまうほど、地域の暮らしの限界が忍び寄ってきていて、未来は(このままでは)暗い。

「重い障害のある方の地域生活をつくっていく」ことはとてもとても大切なミッション。
だけど、その基盤となる社会や地域自体(当たり前暮らし…とか、普通の暮らし…とか)が成り立たなかったら「重い障害のある方の生活」の実現だけを考えていては解決できない。

限られた時間をもっと有効に使いたい。
積極的に、地域や社会を知り、つながりをもてるようにして、「重い障害のある方の地域生活」を実現したい。

グループホームと地域

障害、高齢化、環境、コミュニケーション、家族、地域、医療、制度、支援者不足、専門性、関係性etc…重い障害のある方の地域生活にはハードルがたくさんある。

一方で、ハードルだけに着目するのではなく、本人や、その周辺のこともふくめて、良いところにフォーカスしたストレングスマデル(とか、生活モデルとか)っていう考え方もある。
・好きなケーキだったらなぜかむせないでパクパクいける・いつも笑顔が素敵で周囲の空気を明るくすることができる・誕生日は1回聞いたら必ず覚えることができる とか。
例えば、施設で他傷や自傷してしまったりするけれど、近所のメガネのロマンスグレイのおじさんのところに行って、そこで働いたり一緒に過ごしたりする。すると、自傷もせず、本人も、おじさんも、みんな笑顔ですごすことができたりする。
福祉って、資格を持った専門職が丸抱えて支援するだけでなく、こういうつなぎ方をどうやってするかを考えることだったりもする。

もっと地域の中心にグループホームがあったら、そんなつながり方が増えるんじゃないだろうか。
グループホームと、地域と、お互いが主体的に一緒に取り組めることができれば、今よりももっと幸せなことも。
つながりやすい環境をつくること。その中で新しい支援の在り方や、生き方を見つけることができたと思うとなんだかワクワクする。

しごと・幸せ・仲間・目的

“障害者のグループホーム”をつくっていく、続けていくのは大変なことも多いけど、楽しいこと、幸せなこともきっとたくさんある。

そのためには
どんな仕事をしたらいいのだろう。

- ・一見難しそうなことでも、目の前にいる人が笑顔で幸せに過ごせる可能性があるなら、そっちの方を選びたい。(もし、楽な方を選んだことで、相手がしんどそうにしていたら。なんのためのしごとだったけ??)
- ・なんとなくより、目的をしっかり持って仕事をした。だけど、“〇〇するべき、〇〇しなくてはいけない”って考えるのはしんどい。しんどいだけの仕事はしたくない。
- ・ワクワクする仕事があったら。共に喜べる仲間と仕事があったら。

思いがあれば、仲間がいれば、きっと続けていける。

一緒にワクワクしたい人、待っています。

仙台はげみの会居住支援プロジェクト担当
ねくすと国見 相談支援専門員 安藤 明彦
最近言われた似ている芸能人はやくみつる

HAGEMINOKAI MAP

仙台はげみの会は仙台市内10カ所で事業を展開。



児童発達支援センター
西花苑 たんぽぽホーム

INFO
仙台市青葉区西花苑2丁目10-1
TEL / FAX 022-302-2180
mail a-tanpopo@wing.ocn.ne.jp

ACCESS
仙台市営バス（西口ターミナル10番より）
・八幡経由折立・西花苑行き
「西花苑2丁目」下車すぐ
・西道路経由茂庭台（西花苑経由）行き
「西花苑1丁目」下車徒歩2分

国見 はげみホーム
生活介護 / 計画相談・児童相談

INFO
ねくすと国見併設
（相談支援事業所）
仙台市青葉区国見5丁目9番40号
TEL 022-728-0801 FAX 022-728-0802
mail hagemi-kunimi@way.ocn.ne.jp

ACCESS
JR仙山線「国見駅」より徒歩5分

生活介護事業所
加茂 はげみホーム

INFO
仙台市泉区加茂2丁目24-1
TEL 022-377-6651
FAX 022-377-6652
kamo-hagemi@airos.ocn.ne.jp

ACCESS
地下鉄南北線八乙女駅より
宮城交通
長命ヶ丘行き（2番のりば）
「加茂4丁目」下車徒歩5分

立町 たんぽぽホーム
児童発達支援センター / 法人本部

INFO
仙台市青葉区立町18-3
TEL / FAX 022-266-8810
mail t-tanpopo@leaf.ocn.ne.jp

ACCESS
市営バス / 宮城交通
せんだいメディアテーク前 / 東北公済
病院前 / 立町小学校前…徒歩5分
地下鉄東西線
大町西公園駅より 徒歩7分

上飯田 たんぽぽホーム
児童発達支援センター

INFO
仙台市若林区上飯田3丁目27-23
TEL / FAX 022-289-6835
mail k-tanpopo@leaf.ocn.ne.jp

ACCESS
市営バス
「上飯田3丁目」下車徒歩10分
「上飯田」下車徒歩3分

大野田 たんぽぽホーム
児童発達支援センター

INFO
仙台市太白区大野田5丁目23-4
TEL / FAX 022-246-2956
mail o-tanpopo@leaf.ocn.ne.jp

ACCESS
地下鉄南北線「富沢駅」より徒歩5分

田子西 たんぽぽホーム
児童発達支援センター

INFO
仙台市宮城野区田子西1丁目11-3
TEL / FAX 022-258-8825
mail s-tanpopo@leaf.ocn.ne.jp

ACCESS
JR仙石線
「福田町駅」下車～タクシーで約7分
仙台市営バス
「上田子」下車徒歩5分

高砂 はげみホーム
生活介護事業所

INFO
仙台市宮城野区福室7丁目8-20
TEL 022-786-7275
FAX 022-786-7340
hagemi-takasago@peach.ocn.ne.jp

ACCESS
JR仙石線「陸前高砂駅」より徒歩15分
市営バス
アイリス青葉ビル前50番のりばより
高砂市営住宅西行き
「福室希望園前」下車徒歩1分

レストみやぎの
仙台市障害者家族支援等推進事業

INFO
宮城野区福田町2丁目35-6
TEL 022-387-9910 FAX 022-387-9915
mail rest-miyagino@honey.ocn.ne.jp

ACCESS
仙台市営バス
アイリス青葉ビル前50番のりばより
「蒲生・高砂市営住宅西 行き」
JR仙石線 福田町駅下車 徒歩20分

袋原 たんぽぽホーム
児童発達支援センター

INFO
仙台市太白区袋原4丁目32-7
TEL 022-393-9085
FAX 022-242-8980
mail f-tanpopo@iaa.itkeeper.ne.jp

ACCESS
仙台市営バス四郎丸行き
「袋原落合ポンプ場前」下車
徒歩3分